

に踏下し土壌内1~2cmの深さで越冬する。3月中旬より4月に蛹化する。

5. 成虫の産卵は夕刻より薄暮の間が最も盛で、雌成虫の生存期間は数日間なり。

次に成虫の発生期を対象として、被害林地の地表部にBHC1%粉剤を散布した結果

1. 成虫の発生期を対象とした殺虫剤散布の適期は4月上旬より中旬の中頃
2. 散布量は一町歩当りBHC1%粉剤70~80Kgで適期に散布せる地区は駆除効果80%~100%
3. 駆除費一町歩当り約5,000円を要す。但し兼剤代、人夫賃、燃料代を散布機購入費及び雑費は含まず。
4. 散布に使用せる散布機は共立式背負動力散布機

## 苗畑に於ける根切虫駆除試験(予報)

苗畑に設置せる青色蛍光誘蛾灯によるコガネムシ類の誘引経過

林試熊本支場 小 田 久 五  
倉 永 善太郎

九州管内8管林署所属の苗畑8ヶ所に青色蛍光誘蛾灯を設置し根切虫駆除に必要な資料を得る目的で本年4月1日より11月3日を点灯期間として調査した結果、佐賀、大分、川内の各管林署の苗畑に於ける資料より次の事が判明した。

1. 蛍光灯に惹る主な種類はヒメコガネ、サクラコガネ、ドウガネアイアイ、ヒメサクラコガネ、アカビロウドコガネ等で全面各地で実施している調査結果と時同じである種類の総数は33種で、その中には南系の種類及び種名未定のものも若干あり。
2. 誘致期間は4月上旬~10月下旬で中でも7月下旬~8月下旬の間が最も多い
3. 蛍光灯に誘致出来ない種類としてはマメコガネ他、カナブン類、ハナムクリ類、等で苗畑の周辺に於いて採取出来る。
4. 設置ヶ所の被害発生状況を調査中なるも、根切虫駆除法としての蛍光灯設置の可否については明らかに云えないが、蛍光灯を設置する事により、コガネ虫類の誘致を来し苗畑全体の被害が増加する事は無いものと推定する。

## マツノトビイロカミキリ被害の一調査

長崎縣技師 今 村 正 治  
全 竹 野 忠 生

### 一、調査の目的

所謂松くい虫の中でも最も猛毒と言われている、マツノトビイロカミキリについては時期的の星はあるが、現在行われている剥皮焼却駆除法を駆除した場合枝中に穿入していた幼虫はそのまゝ越冬し翌年成虫となつて飛び出るものがかなりの数に上ると考へら

乳たので、その実態を明らかにするため、標準地を送んで幼虫の穿入孔と羽化するときの飛び出し孔との比率及びこれと同時にマツノトビイロカミキリの加害密度を調査した。

## 二. 調査の時期及び場所

昭和27年9月16日から11月7日にわたって長野県西彼杵郡長興村岡郷において調査を実施した。

## 三. 被害の状況

昭和24年より続いて被害が発生しその程度駆除を実施したが、大歪木は逐次枯死し現在は幼樹令木に移っている。加害害虫は マツノキクイムシ、マツノコキクイムシ、マツノカワキクイムシ、マツノミラホジソウムシ、マツノトビイロカミキリであるが中でもマツノトビイロカミキリは他の害虫に比し著しく優勢であり幼樹令木に対しても一次的に加害している。

## 四. 調査の方法

本年一月より二月末日(冬期駆除)を通じ剥皮焼却駆除実施後林内林外に残置された処理木について材長2米をとり、中央直径を測定しその材におけるマツノトビイロカミキリの入孔数と飛孔数について、入孔数のあるものの毎木調査を行った。これに平行して本年八月より九月末日(秋期駆除)を通じ発生した被害木について自由抽出式に選定し同一方法によりその材におけるマツノトビイロカミキリの入孔をもつた喰痕と入孔をもたない喰痕の数について調査を行った。とりまとめに当つては全級毎に単位面積当りの天々の密度を算出し比確対照した。

表面積算出に使用した数式は  $\Delta = \pi r^2 l$  ( $r$ は中央直径、 $l$ は材長) 単位は一平方米を用いた。

## 五. 調査の結果

入孔数と飛孔数との関係調査について取りまとめた結果は(第一表)、入孔密度の最大値は単位面積当り中央径7材において31.88、最小値は中央直径40材において0.77である。入孔数の総平均値12.49に対し飛出し孔数は10.04で羽化率は80.45%であつた。又本年秋期の被害木喰痕数調査の結果(第二表) 喰痕数の最大値は単位面積当り中央径4材、95.47で最小値は中央径24材で3.97であり、喰痕数の総平均値は33.82であつた。

## 六. 結 び

この調査から見てマツノトビイロカミキリの場合その駆除済材中に越冬をすること、又その羽化率が高いこと(80.4%)を考へるとき、マツノトビイロカミキリが、加害の優勢種である被害地域の松喰虫の駆除法においては検討を要するのではないかと考へられる。

この調査は一小地域の又只一回の調査を不十分のものであるが、敢えて申しのべ御批判を仰ぎたい。

第一表 まつのとびいろいろかみきりの材中穿入孔数及び  
飛出枚調査

1952.1月～2月取除分

1952.9.21 調査

調査材の大	材の長さ 中央径種	供試枚数	全表面積 □㎝当	入孔数	飛出口数	単入口数 単位当り	単飛出口数 単位当り	の最大値を一つの 単位当り入孔数	とした入孔数 の最大値を一つの 単位当り入孔数	と し た 入 孔 数 の 最 大 値 を 一 の 単 位 当 り 入 孔 数	飛出枚数 入孔数に対する	備考
2	2	3	0.3769	10	10	27.33	27.33	85.72	85.72	100		
3	"	3	0.5654	9	9	15.91	15.91	49.90	49.90	45.5		
4	"	3	0.7539	10	8	13.26	6.03	41.59	18.91	41.2		
5	"	11	3.455	92	76	26.62	21.99	83.49	68.98	74.3		
6	"	25	9.4242	265	197	28.11	20.91	88.17	65.59	77.82		
7	"	35	15.3937	491	382	31.88	24.81	100.	77.32	76.5		
8	"	57	28.6504	678	539	23.66	18.11	74.21	56.51	74.01		
9	"	25	14.1370	228	165	16.12	10.23	50.54	33.79	66.0		
10	"	36	22.5835	475	315	21.03	13.90	65.96	40.60	67.9		
11	"	24	16.5873	257	226	15.49	13.62	48.58	42.02	83.8		
12	"	55	41.4689	608	510	14.66	12.29	45.35	38.55	45.5		
13	"	25	20.42	281	235	13.91	11.51	43.00	36.10	84.3		
14	"	29	25.509	314	265	12.31	10.38	38.61	32.56	82.2		
15	"	18	16.964	225	185	13.26	10.91	41.59	34.22	88.7		
16	"	39	41.067	385	342	9.37	8.32	29.39	26.09	88.7		
17	"	4	4.2725	31	19	7.25	4.44	22.74	13.92	61.2		
18	"	23	26.012	314	228	12.07	8.76	39.85	27.48	72.5		
19	"	4	4.775	23	20	4.87	4.18	15.08	13.11	86.9		
20	"	13	16.336	148	135	9.06	8.26	28.30	25.91	91.1		
21	"	10	13.194	103	89	7.71	6.74	24.18	21.20	87.4		
22	"	3	4.1469	22	22	5.35	5.35	16.78	16.78	100.		
23	"	5	7.2256	49	42	6.78	5.81	21.26	18.22	85.6		
24	"	9	13.5716	52	47	3.83	3.46	12.01	10.85	90.0		
25	"	5	7.8540	29	26	3.69	3.31	11.57	10.38	89.7		
26	"	8	13.0689	61	51	4.66	3.90	14.61	12.23	83.6		
27	"	5	8.4823	22	22	2.59	2.59	8.12	8.12	100.		
28	"	4	7.0371	24	16	3.41	2.27	10.69	7.12	66.6		
30	"	5	7.5398	25	23	3.31	3.05	10.38	9.56	92.0		

31	4	2	3,895.5	5	5	1.28	1.28	4.01	4.01	100
32	4	4	8,042.4	23	20	2.86	2.83	8.97	8.87	86.95
34	3	3	6,408.8	16	15	2.49	2.34	7.81	7.34	93.75
35	2	2	4,398.2	7	7	1.59	1.59	4.98	4.98	100
38	1	1	2,387.6	5	2	2.09	0.83	6.55	2.60	40
40	1	1	2,513.2	2	1	0.79	0.39	2.47	1.22	50
45	1	1	2,827.4	5	5	1.75	1.75	5.48	5.48	100
46	1	1	2,890.2	4	3	1.38	1.17	4.32	3.67	75
計	500	424	2390	5,298	4,262	12.49	10.04	39.18	31.49	80.44

第二表

「まつのとびいろかみきり」の喰痕密度調査(1952. 7月駆除分)

(1952. 10. 21. 調査)

調査の大きさ 中央直	孔の大きさ 長さ 米	供試数	全面積 □ml	喰痕		計 (A+B)	孔数 単位当りの入喰痕 A'	の ない喰痕 単位当りの入孔 B'	計 (A'+B')	喰痕の最大 値を100と した場合の 割合
				入喰痕 のある A	未入喰痕 B					
2	2	1	0,125.6	4	0	4	31.84	0	31.84	33.34
3	4	1	0,188.4	8	-	8	42.46	0	42.46	44.46
4	3	3	0,753.9	63	9	72	83.56	11.93	95.49	100
5	2	2	0,628.2	37	11	48	58.89	17.51	76.40	80.25
6	6	6	2,261.4	180	23	203	79.59	10.17	89.76	93.99
7	3	3	1,319.4	106	16	122	80.33	12.12	92.45	96.81
8	6	6	3,015.6	157	33	190	52.06	10.94	63.00	15.47
9	13	13	7,350.2	198	122	320	26.93	16.59	43.52	45.57
10	4	4	2,513.2	53	16	69	21.08	6.36	27.44	28.73
11	17	17	11,748.7	339	140	477	28.68	11.91	40.59	42.51
12	10	10	7,539.0	157	71	328	20.82	9.41	30.23	31.65
13	8	8	6,534.4	244	47	291	37.34	7.19	44.53	46.63
14	3	3	2,638.8	47	20	67	17.81	7.59	25.40	26.59
15	4	4	3,769.6	93	27	120	24.67	7.16	31.83	33.33
16	1	1	1,005.3	15	4	19	14.24	3.79	18.03	18.88
17	5	5	5,340.5	127	24	151	23.78	4.49	28.27	29.61
18	6	6	6,785.4	111	28	139	16.35	4.12	20.47	21.43
19	2	2	2,287.6	33	20	53	13.82	8.37	22.19	23.23

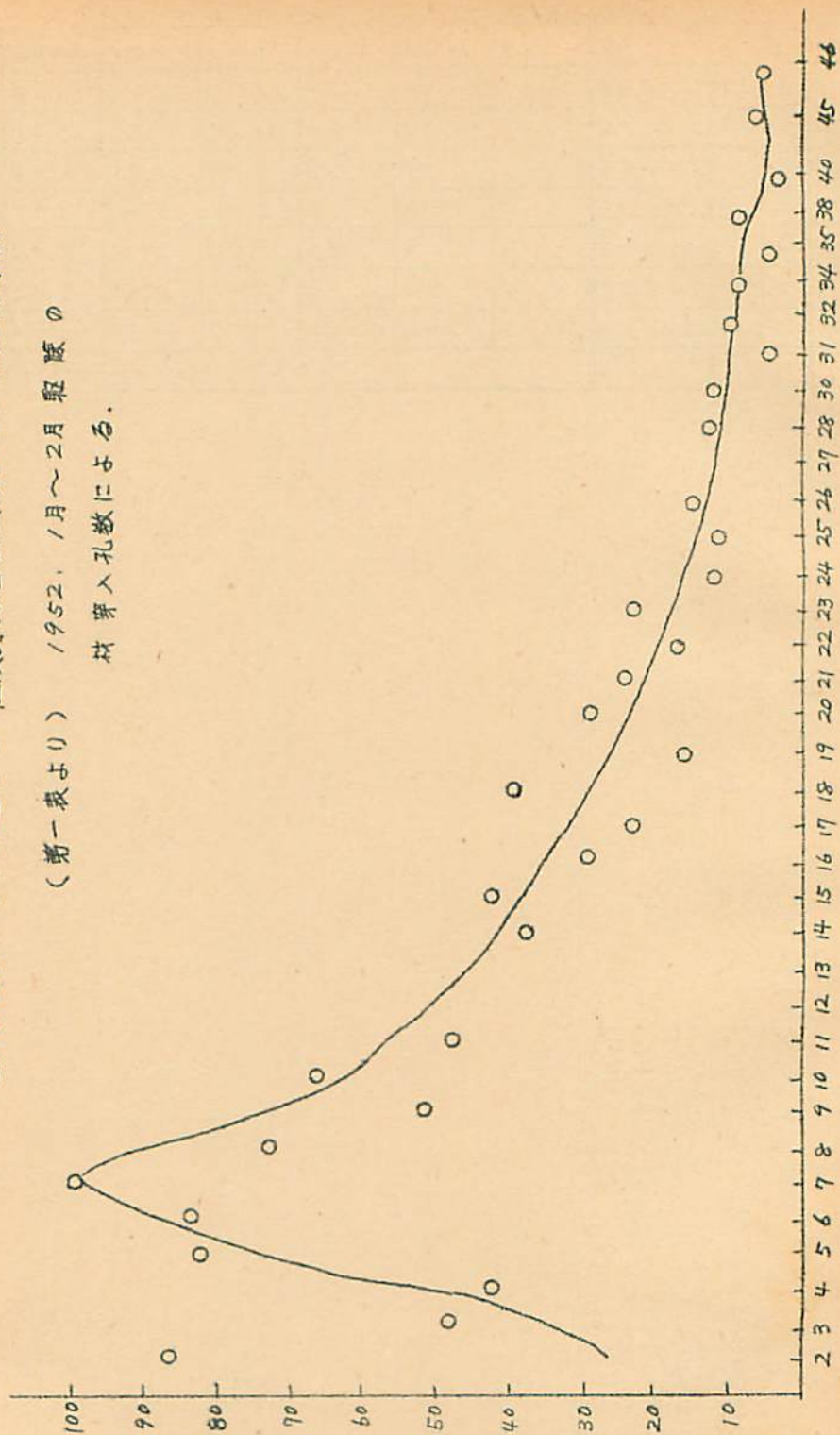
20	"	4	5,0264	87	46	133	17.31	9.51	26.82	28.08
21	"	2	2,6388	31	18	49	11.74	6.82	18.56	19.43
22	"	5	6,9115	140	53	173	20.25	4.77	25.02	26.21
23	"	1	1,4451	14	4	18	9.68	2.76	12.44	13.02
24	"	1	1,5079	4	2	6	2.65	1.32	3.97	4.15
28	"	1	1,7592	12	8	20	6.82	1.32	8.14	8.52
55	"	1	3,4557	9	10	19	2.61	2.81	5.42	5.67
計		110	88,6498	2,267	732	2,979	25.57	8.25	33.82	35.44
							75.60%	24.40%	100.-%	

第3表

まつのとびいろいろかみきりの径級別加害密度及びその推定傾向線

(第一表より) 1952. 1月～2月 駆除の

材穿孔孔数による.



まつのとびいろかみさりの径級別加害密度及びその推定傾向線

(剪ニ表ヨリ)

1952.9月軽塚分の  
能喰痕数ヨリ

